

U-net通信

2013年 1月
Vol.73

発行：地球環境・共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 <http://www.unet.or.jp> 編集人：大山正治／発行人：浜淵隆男

あとから来る者のために
坂村 真民
あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分ができる
なにかをしてゆくのだから



放射能汚染地域での生活基盤回復に確かな手応え ～EM技術とボランティア活動が災害復興を強力に後押し～

大震災対応に真価を発揮したEMによる支援活動は、2年目の昨年、当初の悪臭・衛生対策やヘドロ・塩害対策から、放射能汚染対策に重点が移されました。汚染地域からの要請に基づきEM培養拠点を次々と拡大し、生活基盤の回復と一次産業の復活に向けた支援活動が着実に進められています。3年目の今年は、休耕を余儀なくされた農地や牧草地の復活に向け、支援活動が更に強化されます。

新年に当たり、EM運動の基本と活動方針について、比嘉照夫会長、浜淵隆男運営委員長からのメッセージをお届けします。

＜比嘉照夫会長からのメッセージ＞

比嘉 照夫

—EMが未来を復興する—

明けましておめでとうございます。2011年3月11日の東日本大震災から2回目の新年を迎えることになりました。U-ネットの会員を中心に多数のEMボランティアの献身的な協力により、拙著「シントロピー【蘇生】の法則」に書いてあるEMの力を遺憾なく発揮してくれました。



長期戦となる福島を中心とする放射能対策の拠点づくりは30ヶ所を超え、着実な成果を上げつつあります。すでに御承知のように昨年の8月に「新・地球を救う大変革」をサンマーク社の協力で開催しました。その本の中にも東日本大震災におけるEMボランティアの活躍や福島における放射能対策の成果を詳しく書いてあります。冒頭の「EMが未来を復興する」というタイトルは、その「新・地球を救う大変革」のキャッチフレーズとなっています。常識的に考えると、未来は、創造し、建設するものであり、復興するものではありません。

しかしながら、よくよく考慮すると、現状の延長線上では、未来は、すでに破壊状態にあることは誰でも気付いており、多くの人々は、容易ならぬ事態に陥りつつあることを憂慮しています。やっかいなことに、未来を破壊する様々な要因は、人口増大と産業振興にからむ過剰な競争原理に立脚した社会制度の構造的限界から発生していることです。制度を変えらるとなると、法的な手続きが必要であり、既存概念と既得権益との戦いを覚悟せねばならず、残された道は、人々の資質を向上させ、対処するしかありません。

この場合にも、法的規制は、最小限にし、自己責任と社会貢献

認識を前提とする自由な発想と行動を保証する必要があります。規制の厳しい医療、電力、エネルギー、農業等々の発展の阻害要因は、その分野における自由な発想と行動が不可能という状況に陥っているためであり、この改革にはFTAやTPPによる外圧が必要となってきます。

EM運動の原点は、改めて述べるまでもなく、安全で快適、低コストで高品質、善循環的に持続可能なシステムを作り、幸福度の高い高度情報共存共栄社会を作ることにあります。結論的なことを言えば、個々人はもとより、産業界や社会全体がEMを空気や水のごとく使うだけで現状の大半の問題を解決し、同時に未来を復興し得ることは明らかです。

EM生活を基本とする病気にならない生き方、環境問題の根本的な解決は、EMの世界では、すでに常識化しており、EMを通し、個々の資質を向上させ、ボランティア活動を含め、EMで楽しく納得のいく人生を創造する事例が続出しています。“海の日”のEM投入”を軸とした全国的な活動も、今日では、全国豊かな海づくり運動と連動しながら国民運動的な広がりになりつつあり、EMIは今や、これまでの行政や個人の限界突破の大きな力となり始めています。

未来を破壊する本質的な問題の解決には、EMをベースとする自己の資質を高める必要は改めて述べるまでもありません。U-ネットでは、今年も各地の“善循環の輪の集い”を更に強固なものにし、より多くのEMの講演会や研修会を開催する予定になっています。同時に、自己宣誓的なEMの署名運動もスタートしました。その署名は政治的目標を旨としたものでなく「私はEM生活をして、結果として社会に貢献したい」と決意した人々に署名をお願いしているもので「EM生活が世の中を変える」という思いと願いが込められた署名活動です。締切の期限もなく、日本人の大半の人々が署名するまで続けることになっています。より多くの人がこの署名活動に参加することを願っています。

<浜淵隆男運営委員長からのメッセージ>

浜淵 隆男

—EMの本格的な時代へ—

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

私たちのU-ネットは、平成10年1月(1998)に比嘉先生を会長に、見返りを求めないボランティアが世の中を変えするという基本理念のもと発足し、昨年で15周年を迎えました。

振り返りますれば、発足時の仲間は今役を卒業し、残りの人生をEMを活用して環境を良くしたいという人達と子育てが終わって環境に関心の高い主婦の方が集まってくれました。幸いにも比嘉先生を信じてEMを理解



している人々が中心になって下さいました。

私たちは第一段階として、全国各地の組織作りに入りました。そしてそれが、一応整った平成17年(2005)から第二段階として、U-ネットを大きく育てるためには、地域の環境を良くしようという人々を大きくまとめるべきだと判断し、【善循環の輪】と名付け、横のつながりを強め、EMでそれぞれのふるさとの環境を守る輪をつくろうと考えました。【第一回 善循環の輪の集い】を平成17年7月に新潟で成功裡に開催し、全国各地で57回開催しました。どの会場も予想以上の多く参加者があり、一緒にやりましょうと、今では全国で1,350グループを超え、推定で26万人の大きな輪になりました。これからもどんどん大きくなると思います。このことは、各地の世話人の皆様の献身的なお力添えのお蔭と心から感謝しております。

此度の東日本大震災の被災地支援も積極的に活動して参りました。今では、EMで自分たちのふるさとの自然を取り戻そうという輪が各地で拡がりつつあり、私たちは皆様からの支援金及びEM資材の提供品を効果的に使いながら、全面的に支援しております。皆様のご支援を心から御礼申し上げます。比嘉先生も「今こそ、EMで東北を、日本を救うときだ…」と体を張って頑張っておられます。私たちU-ネットも、これからも被災地支援を続けて参ります。

新しい年、平成25年(2013)からの課題は、国や中央官庁にEMを認めてもらい、本格的なEMの時代をつくることです。私たちは、霞が関の中央官庁は保守的で新しいことへ取り組まないガードの固さは、充分承知をしております。しかしこの壁をブチ破らなければ日本は救われません。

そういう中で私たちは、反EM派の妨害に耐え、我慢し、辛抱強く、全国各地で着実にEMの輪を拡げて参りました。今では、大きな輪になりつつあります。これからも大きくなるでしょう。このことはEMが汚染を浄化する安全で安心、その上ローコストのすばらしい技術であることをメンバーの方々が身をもって実感されているからなのです。幸いにも、現在、全国各地の地方行政の前向きの方々は、EMはやるべき、応援すべきの声が急速に広がって参りました。今こそ私たちは反EM派の妨害を排除して、地方行政の支持を得た成功例が多くなってくれば、国も中央官庁もEMの良さを認めることになると確信しております。

U-ネットのこれからの10年は、EMの本格的な時代をつくる大切な時期だと思っております。そのためには、これまでの組織を強化する必要があります。そこで私は、比嘉先生を中心とした三位一体(EMRO・EM生活・U-ネット)を今まで以上に強化して、【善循環の輪】の着実な拡大と内容の充実を計るための組織案を早急に立案し、提案したいと考えております。その節はよろしくご協力の程、お願い申し上げます。

成功の秘訣は、成功するまであきらめないことです。

2013年の U-ネット主要年間行事計画

2月 2日(土)	EM技術講演会(山梨県甲府市)
2月 23日(土)	U-ネット総会
4月 20日(土)	第4回 EM技術懇談会 (福島県南相馬市)
4月 29日(月・祝)	善循環の輪・福島浜通りの集い
5月 25日(土)	善循環の輪・大阪の集い
5月 26日(日)	世話人講座 【近畿・中国地区】
6月 1日(土)	善循環の輪・福岡の集い
6月 2日(日)	世話人講座 【九州・沖縄地区】
6月 29日(土)	善循環の輪・神奈川の集い
6月 30日(日)	世話人講座 【関東・甲信越地区】
7月 15日(月・祝)	第4回 EMの日・ 全国一斉EM団子活性液投入
8月 31日(土)	善循環の輪・宮城の集い
9月 1日(日)	世話人講座 【北海道・東北地区】
9月 21日(土)	善循環の輪・静岡の集い
9月 22日(日)	世話人講座 【東海・北陸地区】
10月 26日(土)	善循環の輪・京都北部の集い
11月 2日(土)	善循環の輪・香川の集い
11月 3日(日)	世話人講座 【四国地区】
11月 9日(土)	第2回 環境フォーラム (福島県郡山市)
12月 21日(土)	善循環の輪・大分の集い



全国のEM仲間の善意と期待を実績に変え、復興を果たした福島農家 ～超高精度検査機が実証した放射性セシウム“不検出”～

取材／杉山

福島第一原発の地震と津波による多重事故は、東北地方を中心に多くの放射能汚染をもたらし、今尚、多くの県民が故郷に帰ることが出来ない不自由な生活を余儀なくさせられている。災害より早2年が経過しようとしているこの時期、復興活動や現地の農家の実情を把握する為に、福島県の相双地方の川内村(福島第一原発より20km圏)、県中地方の田村市(同40km圏)、須賀川市(同60km圏)、県北地方の松川町(同60km圏)、の現地取材をレポートする。

米の作付(ひとめぼれ)を決めた堀本農園 川内村大字上川内

現地の線量は0.3μS/hと今年6月に比べ僅かながら減少傾向が見られたものの、まだまだ高い状況に変わっていない。しかし、今年5月に福島県が民間から提案された3つの資材について、土壌中の放射性セシウムの作物への“移行”を抑える効果を調べ、いずれも有効であるとした事、また、中でも「EMオーガグリシステム標準たい肥(マクタアメニティ株式会社製)」が塩化カリウムに比べ3倍以上も上回る効果がある事、超高精度ゲルマニウム半導体検査機による今年収穫した米(白米)の測定が、検査機の検出限界値(1Bq/kg)以下となっている事、等々が5haの水田を擁する堀本農園(堀本雄一郎氏)の米作再開を後押ししたのも頷ける。元々、堀本氏はEM活性液を撒いて除染活動をして来た経緯もあり、今年からは更にゼオライト(200kg/反)、及び、塩化カリウム(10kg/反)、けい酸カリ(20kg/反)を加えて来年に向けた水田造りに取組んでいる。



▲作付準備が進む水田

大量培養装置で大規模除染活動と共に 米作りに取組むコズモファーム 田村市都路町

日焼けした顔のコズモファームの今泉 智氏と米倉金喜氏は、精力的に除染活動を進める傍ら、このところ水田造りに余念がない。

既に土造りは終了している模様で、定期的にEM活性液を散布していると言う。実は今泉氏の住む都路町の東側は原発より20km圏内に位置している為、“耕作不可地域”に指定されている。従って今回の水田は20km圏外にあるのは言うまでもないが、他地域と違ってセシウム対策用剤以外に化学肥料も追加しての土造りを余儀なくさせられている。

また、避難生活をしている多くの農家向けに、EMIによる除染やEM効果をアドバイスしていて、近々比嘉照夫教授を呼んでセミナーを開く構想もあると聞く。仮設住宅で避難生活をしている多くの方が悩む“カビ”問題。EMで解決できると考え行動するロジックに只々脱帽である。今泉氏の住居はログハウス風で、この地にぴったりだが、畑や山林同様にEM活性液を万遍なく散布している為か、10年以上も経過した今でも生きいきとした木の香りや温もりを感じることができる。

▲新規の水田前の
今泉 智氏(左)と
米倉金喜氏(右)

売上減少に直面するレタスのハウス栽培農家の秘策 須賀川市

石井農園(石井孝幸氏)のビニールハウス内ではレタスが大量に栽培されている。レタスからのセシウム検査では“不検出”となっているものの、震災以降は無人販売店でも80%程度まで減少していると言う。しかし、各地から贈られたEMボカシや、EM発酵させた豚ふんや植物資材のニームを使用しての土造りを絶えず心掛けた結果、顧客からは「柔らかくて甘みがあるし、エグ味や苦味が無い」との好評を得ていて、来年以降もニーズに合わせた“地産地消サイクル”を重視しながらハウス栽培を拡大する意向。夏はキュウリ、冬はレタスが主産品で、出荷に際しては写真のような“EMボカシ栽培”タグを貼ってEM農法をアピールすることもある。

▲ビニールハウス内の
レタスと石井孝幸氏

白鳥が飛来する23haの 広大な農地に夢が広がる佐藤農園 福島市松川町

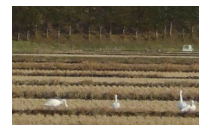
100軒以上の農家が協賛する、まつかわ農産物直売所の“みさと産直ひろば・ディスカバリー”を運営する傍ら、自ら18haの水田を手掛ける佐藤農園(佐藤精一氏)は、来年に向けて大きな自信を覗かせる。それは顧客からの注文が回復基調にあることに他ならない。

今年は米を収穫しながら、JAの全袋検査で“合格”を得た事、また、(株)EM研究機構(EMRO)が独自調査の一環で同米(白米)を(株)福島同位体研究所に依頼した調査でも1Bq/kg以下の“不検出”となった事は、生産者のもとより顧客にも安心安全の福音でもあった。

心配されたゼオライト散布による食味低下を、除染を兼ねてEMを年4回も散布して対応したり、全袋検査に時間が掛かり、店頭販売が遅れるハプニングもあったが、何とか乗り切った事も自信に繋がる。佐藤氏は2013年は震災以前の売上高に戻せそう、と言うが目標はもっと高い所にあるのは言うまでもない。

生産米はコシヒカリ、ミルキークイーン、松川きりり米、コガネモチの4種類。最近のニーズは冷めても適度の湿気と粘りのあるミルキークイーンや松川きりり米に移っていることから、生産量は柔軟に対応するようだ。

また、元氣村農産加工所大豆工房では、自前的大豆を使用した“元氣村豆腐”の生産販売も手掛け、地域に密着した地産地消の流通システムを稼働させて顧客に喜ばれている。

▲多くの白鳥が飛来
する広大な農地



“未来”からの負託に応える行動を!

環境フォーラム「うつくしまEMパラダイス」開催

「“未来”とは子供たちです。大人はすべてを費やしても放射能から子どもたちを守らなければならない。そのための行動を起こしてください。それも早急に。1日、いや1分、1秒でも早く。手をこまねいてじっとしている暇はないのです。このフォーラムが終わったらすぐにはじめてください」——NPO法人チェルノブイリへのかけはしの野呂美加代表の悲痛な声が会場内に響くと、つかの間の静寂の後、最初は静かに、やがて大きくなった拍手がしばらく続いた。それが鳴りやんだ時、会場内の雰囲気は明らかに一変した。



▶パネルディスカッションのパネラーの皆様。左からNPO法人チェルノブイリへのかけはし代表・野呂美加氏、株式会社EM研究機構研究部長・奥本秀一氏、ベラルーシ共和国国立放射線生物学研究所所長・アレクサンドル・ナウモフ氏、通訳・イワン氏、ベラルーシ共和国国立放射線生物学研究所放射線生態学研究室室長・アレキサンダー・ニキティン氏

放射能汚染とわたりあう意志を確認

2012年10月8日、福島県二本松市市民会館で環境フォーラム「うつくしまEMパラダイス-世界の事例から学ぶ災害復興-」(主催:U-ネット、後援:二本松市・ふくしまFM)が開催された。当日は、福島県内外から900人が参加し、会場をほぼ埋め尽くした(フォーラムで発表された現場事例については、当日配布した「2012EM災害復興支援プロジェクト事例集」に記載。事務局に在庫あり)。

福島第一原発事故より1年半以上が経過した。原発事故の記憶の風化が懸念されてもいる中で、県内外から大勢の参加者があったことは、放射能対策は全国的に、依然、切実かつ喫緊の課題であることを改めて浮き彫りにした。

同フォーラムの意義は幾つもあるが、ひとつだけ簡単にあげるならば、放射能汚染と長期にわたりあう意志を福島県内外からの参加者がともに確認したことである。そのことをもっとも象徴的にあらわしていたのが、冒頭記した、パネルディスカッションでの野呂氏の発言と会場内の反応であった。EMによる除染は、誰のための、何のための活動なのか。なぜ実践するのか。誰が決断したのか等々、「つかの間の静寂」は原点を一人ひとりが思い起こしていた時間だったに違いない。そして意欲を再燃させ、新たに決意した。その表明が「拍手」だったように思われる。

参加者のひとは次のように話してくれた。「EM散布による除染効果があらわれない状態が長引くと、周囲の目も気になって継続がづらくなってくる。けれど、今日は参加してよかった。知識や情報が得られただけでなく、意欲が湧いたのが一番大きい。成果が出るまでEM散布を続けようと思う」。

参加者のひとは次のように話してくれた。「EM散布による除染効果があらわれない状態が長引くと、周囲の目も気になって継続がづらくなってくる。けれど、今日は参加してよかった。知識や情報が得られただけでなく、意欲が湧いたのが一番大きい。成果が出るまでEM散布を続けようと思う」。

情報収集と日常生活でのEM活用を

福島第一原発事故は収束していないし、放射能汚染は福島だけにとどまる問題ではない。放射能はこの島国を囲む海洋にも放出された。学校給食の食材や回遊魚(広大な海域を泳ぎ回って暮らしている魚)から放射性物質が検出されたとのデータも出てきている。このような事実から私たちが取り組む「海の日EM一斉投入」は、より一層意義の大きい活動となるであろう。また、今回のフォーラム開催を起点にして、放射能から身を守るため日頃から放射能に関わる情報に目を配るとともに日常生活レベルでのEM活用を励行したい。

i n f o r m a t i o n

事務局からのお知らせ

■U-ネット年次通常総会のご案内

日時 平成25年2月23日(土) 13:00~17:30(終了後、交流会)

会場 芝公園フロントタワー2階

正会員の皆様には、1月末にご案内(総会議案)を郵送します。

■U-ネットのホームページがリニューアル

U-ネットのホームページを全面刷新し、公開しています。組織や事業の概要を分かりやすくし、WEBからも入会手続きができるようにしました。

また、イベントの開催報告やEMが取り上げられた関連記事なども、トップ画面で随時インフォメーションしていきます。

是非、ご活用ください。

■高橋比奈子さん、ご当選おめでとうございます!

昨年12月16日の衆議院議員選挙で、U-ネット運営委員の高橋比奈子さん(自民・元岩手県議)が初当選をされました。国政の場での活躍を応援しています。

